

									検体検査システム
1	-	1							システム基本仕様
1	-	1	-	1					システム基盤
1	-	1	-	1	-	1			検査情報は検体検査サーバーのデータベースで暗号化された状態で一元管理できる。
1	-	1	-	1	-	2			検査情報は設定された年数分をサーバーのハードディスク内へ保存できる。但し、年数はハードウェアのディスク容量に依存とする。
1	-	1	-	1	-	3			データベースは定期的に自動でバックアップできる。
1	-	1	-	1	-	4			バックアップデータは設定により複数世代を保管できる。
1	-	1	-	1	-	5			サーバーの障害時はバックアップデータから、バックアップを取得した時点の状態に復旧して運用継続できる。
1	-	1	-	1	-	6			障害発生時点から1時間前のシステム状態に戻ることができる。
1	-	1	-	1	-	7			機器構成により、サーバーを二重化してデータの同期を取り、障害時はサーバーを切り替えて運用を継続できる。
1	-	1	-	1	-	8			サーバーは24時間365日連続稼働できる。(メンテナンス時を除く)
1	-	1	-	1	-	9			他システムや分析装置等の機器と連携する常駐処理はバックグラウンド処理(サービス)として動作し、システムへのログインは不要にできる。
1	-	1	-	1	-	10			サービスはシステムで一元管理され、管理者がサービスの稼働状況を把握する為の専用画面(サービス状況画面)を有する。
1	-	1	-	1	-	11			サービス状況画面から、サービスの一覧や起動状態、起動端末の確認ができる。
1	-	1	-	1	-	12			サービス状況画面から、サービスの起動・終了、起動端末の振替ができる。
1	-	1	-	1	-	13			システム端末はシステムで一元管理され、管理者が端末の稼働状況を把握する為の専用画面(端末状況画面)を有する。
1	-	1	-	1	-	14			端末状況画面から、起動している端末、システム起動有無、IPアドレスの確認ができる。
1	-	1	-	1	-	15			日付更新(日替処理)時、検査業務を停止することなく運用ができる。
1	-	1	-	1	-	16			業務画面が表示された状態でも常にメニューが表示され、画面を閉じなくても他業務を起動できる。
1	-	1	-	1	-	17			使用頻度の高い業務画面のショートカットキー(アイコン)をメニューに配置し、画面呼出が容易にできる。ショートカットキーの設定はシステム共通、端末別、ユーザー別のいずれかでできる。
1	-	1	-	1	-	18			ショートカットキーの設定がユーザー別にできる。
1	-	1	-	1	-	19			業務画面で選択した患者や検体を引き継いで別の画面に遷移できる。
1	-	1	-	1	-	20			全ての画面で操作ヘルプを表示できる。
1	-	1	-	1	-	21			設定により、時間内と時間外の区分の切替ができる。
1	-	1	-	1	-	22			検査依頼番号の付与は、診療科別、病棟別、入外別、端末別等に柔軟な採番管理ができる。
1	-	1	-	1	-	23			設定により、過去、当日、未来の検査依頼日に対して、依頼登録と同時に患者および検体受領、到着確認ができる。
1	-	1	-	1	-	24			検査結果は数値・文言・画像データを取扱うことができ、分析装置、顕微鏡カメラ、外部委託先からの取り込みに対応できる。
1	-	1	-	1	-	25			検査結果をもとに患者情報の血液型、感染有無が更新できる。
1	-	1	-	1	-	26			検査項目情報の表示順は、検査項目コード順・マスター設定の表示順のいずれかで設定できる。
1	-	1	-	1	-	27			外部委託項目は、わかりやすく表示する。
1	-	1	-	1	-	28			主な帳票はプレビュー表示ができ、印刷内容を確認して印刷ができる。
1	-	1	-	1	-	29			印刷プレビューの画面ではページ送り、拡大・縮小、出力先の変更ができる。
1	-	1	-	1	-	30			システムが作成する全ての印刷物(検体ラベルを含む)は印刷履歴データとして一定期間、保存できる。
1	-	1	-	1	-	31			印刷履歴データを照会する専用画面を有し、以下の処理ができる。
1	-	1	-	1	-	31	-	1	◦ 表示期間(発行日、時刻)の範囲が指定できる。
1	-	1	-	1	-	31	-	2	◦ 発行日、発行者(ログインユーザー名)、作成プログラムが確認できる。
1	-	1	-	1	-	31	-	3	◦ 印刷物の内容を確認(プレビュー)できる。
1	-	1	-	1	-	31	-	4	◦ 出力先を指定して再発行ができる。
1	-	1	-	1	-	32			システムの状況監視として、リソース監視、死活監視ができる。
1	-	1	-	1	-	33			リソース監視は、CPU使用率、メモリ使用率、ディスク使用率を対象とできる。
1	-	1	-	1	-	34			パフォーマンス監視は、パフォーマンスモニタ値、特定クエリの実行時間、外部連携実行時間を対象とできる。
1	-	1	-	1	-	35			エラー監視は、システムログ、アプリケーションログを対象とできる。
1	-	1	-	1	-	36			設定した端末・ユーザーに対してポップアップ表示や通知音を指定して通知ができる。
1	-	1	-	1	-	37			通知内容は端末毎に履歴の管理を行い、後で確認できる。
1	-	1	-	2					セキュリティ・トレーサビリティ
1	-	1	-	2	-	1			システムを使用する場合、ユーザーIDとパスワードによるシステム認証(ログイン)ができる。
1	-	1	-	2	-	2			機器構成により、ログインにFeliCa Lite規格のカードを使用できる。
1	-	1	-	2	-	3			パスワードは長さ・複雑さを設定できる。(最小桁数・アルファベットの大文字小文字・数字・記号を含む含まないを設定できる)
1	-	1	-	2	-	4			パスワードの有効期限(日数)の設定ができる。また、期限切れの事前通知ができる。
1	-	1	-	2	-	5			パスワードのエラー回数を設定できる。また、パスワード更新時の重複チェック(前回パスワードとのチェック)ができる。
1	-	1	-	2	-	6			ユーザーID毎に使用可能な業務と権限(権限無し、参照、更新、承認)の設定ができる。
1	-	1	-	2	-	7			離席時に使用中の画面をロックすることができる。また、ログインと同一の操作でロックを解除できる。
1	-	1	-	2	-	8			画面に表示されている患者の個人情報(患者ID、患者カナ名、患者名、生年月日)をマスク文字でマスクできる。
1	-	1	-	2	-	9			ログインユーザー毎に操作の内容をログに記録し、管理できる。
1	-	1	-	2	-	10			記録したログは、画面表示およびファイル出力(CSVファイル)ができる。
1	-	1	-	2	-	11			記録したログは、目的に応じた検索ができる。(処理日、操作ユーザー、処理機能、操作端末、検査依頼、検体)
1	-	1	-	2	-	12			検査結果に関する変更は変更前と変更後の内容がログに記録できる。
1	-	1	-	2	-	13			マスターに関する変更は対象項目の変更前と変更後の内容がログに記録できる。

1	-	1	-	2	-	14		患者ID単位で操作のトレースができる。
1	-	1	-	2	-	15		ログは永続保存できる。(ハードディスク容量に依存)
1	-	1	-	2	-	16		過去の検査データ(初検値、再検値)を検索可能であること。
1	-	1	-	2	-	17		暗号化したテキストファイルは必要に応じて、画面で参照できる。
1	-	1	-	2	-	18		他システムや機器との通信のトレースログを記録でき、画面表示できる。
1	-	1	-	2	-	19		通信のトレースログは保存期間を設定でき、保存期間を超えたものは自動で削除できる。
1	-	1	-	3				コミュニケーション・計画管理機能
1	-	1	-	3	-	1		公開範囲(全ユーザー、特定ユーザー、ユーザーグループ)を指定してメッセージ送信(申し送り)ができる。
1	-	1	-	3	-	2		自分宛ての未読のメッセージがあることを認知でき、内容の確認、既読管理ができる。
1	-	1	-	4				システム諸元
1	-	1	-	4	-	1		1日の最大依頼受付数は99,999以上の受付ができる。
1	-	1	-	4	-	2		検査項目コードは電子カルテと通信可能な桁数とする。(現在は5桁)
1	-	1	-	4	-	3		検査材料コードは半角英数3桁で登録できる。
1	-	1	-	4	-	4		検査容器は999種類以上の登録ができる。
1	-	1	-	4	-	5		セット検査は999セット以上の登録ができる。
1	-	1	-	4	-	6		ワークシートコードは半角英数で登録数は999種類とし、桁数は初期設定で決定できる。
1	-	1	-	4	-	7		コントロール検体は999種類以上の登録ができる。
1	-	1	-	4	-	8		1検査依頼における検査項目数は最大999項目まで登録できる。
1	-	1	-	4	-	9		1セットあたりに登録できる項目数は100項目以上である。
1	-	1	-	4	-	10		1ワークシートあたりの検査項目の登録数は60項目とできる。
1	-	1	-	4	-	11		診療科コード、病棟コードは電子カルテと通信可能な桁数とする。(現在は3桁)
1	-	1	-	4	-	12		報告書コードは半角英数字2桁で登録できる。
1	-	1	-	4	-	13		医師コードは半角英数字で10桁以上の登録ができる。
1	-	1	-	4	-	14		患者ID桁数は14桁以上の登録ができる。
1	-	1	-	4	-	15		患者カナ氏名は半角30桁以上の登録ができる。
1	-	1	-	4	-	16		患者漢字氏名は全角15文字(半角30桁)以上の登録ができる。
1	-	1	-	4	-	17		職員ID桁数は半角英数字で10桁以上の登録ができる。
1	-	1	-	4	-	18		職員漢字氏名は全角16文字(半角32桁)以上の登録ができる。
1	-	1	-	4	-	19		検査項目にJLAC10、JLAC11の両方の情報が登録できる。
1	-	2						外部システム連携
1	-	2	-	1				外部委託管理
1	-	2	-	1	-	1		検査項目の一部を外部の検査機関に委託して管理を行うことができる。
1	-	2	-	1	-	2		外部委託先は複数登録でき、検査項目毎に委託先が設定できる。
1	-	2	-	1	-	3		外部委託処理の専用画面を有し、処理日(抽出日)毎に進捗状況を管理できる。
1	-	2	-	1	-	4		外部委託管理は委託先毎に以下の処理ができる。
1	-	2	-	1	-	4	-	1。到着済検体の依頼を対象に、委託項目の抽出ができる。
1	-	2	-	1	-	4	-	2。検体を事前に確認するための準備リストを印刷できる。また、同時に外部委託用の検体ラベルが発行できる。
1	-	2	-	1	-	4	-	3。出力先を指定して委託用の依頼データファイルを作成できる。また、同時に依頼データの内容を依頼リストとして印刷できる。
1	-	2	-	1	-	4	-	4。取込元を指定して委託先から返される結果データファイルの取込みができる。また、同時に取込リスト、処理結果の印刷ができる。
1	-	2	-	1	-	4	-	5。取込元を指定して委託先から返される画像報告書ファイルの取込みができる。また、同時に取込リスト、処理結果の印刷ができる。
1	-	2	-	1	-	4	-	6。同一LAN内の委託先端末の特定フォルダー(共有可が前提)を監視して、自動で結果取込みができる。
1	-	2	-	1	-	5		データ交換はMEDIS準拠フォーマットで連携ができる。
1	-	2	-	1	-	6		データ交換の検査項目は同一項目であっても、依頼、結果別にコードを設定できる。
1	-	2	-	1	-	7		依頼データは出力済み管理により、重複依頼の制御ができる。
1	-	2	-	1	-	8		結果値のLH判定は委託先から返されたもの、もしくはシステムの判定で取り込みできる。
1	-	2	-	1	-	9		同一項目の結果を複数回取り込む場合、検査結果の上書き可否を設定できる。
1	-	2	-	1	-	10		委託の依頼単位に報告完了が管理できる。
1	-	2	-	1	-	11		委託先から受信した結果値に対して、院内で設定したパニック値チェックができる。
1	-	2	-	1	-	12		特定項目かつ特定の結果値登録時、ポップアップメッセージで患者コメントを表示できる。
1	-	2	-	2				HIS連携
1	-	2	-	2	-	1		病院が指定するHISと接続してデータ連携(依頼・受付・結果等の受渡し)ができる。
1	-	2	-	2	-	2		HISベンダーが提供する接続方式、通信手順、通信フォーマットでの連携に対応できる。
1	-	2	-	2	-	3		MEDIS・JAHISの標準仕様やHL-7に対応できる。
1	-	2	-	2	-	4		HISの仕様に合せて検体ラベルの運用・制御ができる。
1	-	2	-	2	-	5		至急検査は設定により依頼単位・検体単位・検査項目単位に対応できる。
1	-	2	-	2	-	6		依頼コメントは依頼単位・検体単位にHISから受信できる。また、全てコード形式、フリー形式の両方に対応できる。
1	-	2	-	2	-	7		HISから患者の移動情報(転科・転棟)を受信できる。
1	-	2	-	2	-	8		HISから病名情報を受信できる。
1	-	2	-	2	-	9		検査システムが検体ラベルを発行する運用の場合、HISにラベル発行情報を送信できる。

1	-	2	-	2	-	10			設定により、検体到着時にHISに検査開始情報(検査中、空白結果等)を送信できる。
1	-	2	-	2	-	11			設定により、分析装置が検査を開始した時点でHISに項目毎の報告予測時間を送信できる。(HISの仕様による)
1	-	2	-	2	-	12			報告コメントは依頼単位・検体単位・結果単位にHISに送信できる。また、全てコード形式、フリー形式の両方に対応できる。
1	-	2	-	2	-	13			画像、文書(PDF)情報を自動または手動にてHISに送信できる。
1	-	2	-	2	-	14			HISのダウン時も検査運用が停止せず、HIS復旧時自動的に結果送信など速やかに整合性が担保できる。 但し、HISダウン時に検査を行ったオーダーについてはHISベンダーとの取り決めに従って送信するものとする。
1	-	2	-	2	-	15			一括再送信指示画面にて、ラベル発行発行済み情報を一括再送信できる。
1	-	3							システム接続機器
1	-	3	-	1					オンライン接続装置
1	-	3	-	1	-	1			仕様上オンライン通信が可能な析装置およびその他機器(採血管準備装置、検体前処理分注装置、搬送ライン等)は、オンライン接続ができる。
1	-	4							検査準備業務
1	-	4	-	1					依頼管理
1	-	4	-	1	-	1			当日(日付指定)の検査依頼一覧を確認できる。(依頼一覧画面)
1	-	4	-	1	-	2			依頼一覧には患者属性、依頼医、コメント情報、依頼項目などの情報が表示できる。
1	-	4	-	1	-	3			検査部門依頼として、検査依頼の新規登録ができる。
1	-	4	-	1	-	4			検査依頼日が過去、当日、未来の登録ができる。
1	-	4	-	1	-	5			検査依頼日・依頼番号を指定し依頼削除できる。
1	-	4	-	1	-	6			削除された依頼の削除復帰ができる。
1	-	4	-	1	-	7			検査依頼項目の追加、修正、削除ができる。
1	-	4	-	1	-	8			依頼区分は通常・至急を選択できる。
1	-	4	-	1	-	9			至急区分は画面上で区別でき、TAT時間を別管理ができる。
1	-	4	-	1	-	10			検査項目単位の至急、採血管単位の至急に対応できる。
1	-	4	-	1	-	11			採血管単位に材料変更ができる。
1	-	4	-	1	-	12			属性情報の必須入力指定ができる。
1	-	4	-	1	-	13			患者IDを入力する事で患者基本情報に登録されている情報が自動表示できる。また、患者情報を登録・修正した場合は患者基本情報に反映できる。
1	-	4	-	1	-	14			依頼番号は入外区分、診療科/病棟別に番号帯を分けて採番できる。また、手動採番ができる。
1	-	4	-	1	-	15			検査依頼時に検体ラベル、分注ラベルが発行できる。
1	-	4	-	1	-	16			依頼修正時は未印刷ラベルのみを発行できる。
1	-	4	-	1	-	17			障害時対応として依頼伝票と同じ並びで検査項目を表示し、マウス選択することで検査依頼ができる。
1	-	4	-	1	-	18			検査依頼項目として単項目、親子項目、セット検査の入力・修正・削除、及びセット検査内の変更・削除ができる。
1	-	4	-	1	-	19			身長・体重・尿量を入力可能とし、入力値は検査結果として計算式に利用することができる。
1	-	4	-	1	-	20			削除された項目の識別ができる。
1	-	4	-	1	-	21			新規依頼登録時、患者IDを入力することにより、同一検査依頼日で検査依頼が存在していた場合、その旨を示すメッセージ表示ができる。
1	-	4	-	1	-	22			検査依頼の属性情報を一覧形式で入力・修正できる。
1	-	4	-	1	-	23			件数の指定で、診療科/病棟、検査依頼項目を指定し同一内容の検査依頼を一括登録できる。
1	-	4	-	1	-	24			患者情報の入力間違いを防止する機能として、電子カルテと連携し最新の患者情報が取得できる。また、取得した患者情報で依頼を更新できる。
1	-	4	-	1	-	25			依頼コメントや依頼フリーコメントを一覧で出力できること。
1	-	4	-	2					ラベル発行
1	-	4	-	2	-	1			依頼指定(個別指定)、検体指定、範囲指定、フリーラベルの指示区分によりラベル出力ができる。
1	-	4	-	2	-	2			検体指定では、入力された検体番号(バーコード)と同一ラベルの再発行できる。
1	-	4	-	2	-	3			範囲指定では、入外区分、診療科/病棟、出力順(指定番号順、診療科もしくは病棟順)、ラベル印刷状況(初回印刷もしくは再印刷)の指定ができる。
1	-	4	-	2	-	4			フリーラベルは検体番号、ラベルコメントを任意に指定して印刷できる。
1	-	4	-	2	-	5			コントロールバーコード(精度管理用バーコード)が印刷できる。
1	-	4	-	2	-	6			指示ラベルの出力ができる。また、指示ラベルには依頼に紐付く検体ラベルの一覧や属性情報が印字できる。
1	-	4	-	2	-	7			予約ラベル(翌日準備)の一括発行ができる。
1	-	4	-	2	-	8			病棟および診療科毎に採取指示リスト(予約ラベル発行対象者一覧)が印字できる。
1	-	4	-	2	-	9			予約ラベル、採取指示リストは発行後に追加項目などのオーダー修正があった場合は差分のみ発行ができる。また、再発行ができる。
1	-	4	-	2	-	10			予約ラベル発行では、入外区分、病棟もしくは診療科(複数指定)、出力先区分(初回出力、再出力)が指定できる。
1	-	4	-	2	-	11			予約ラベル発行では発行対象者を画面で確認ができる。
1	-	4	-	2	-	12			予約ラベルにおいて、病棟毎に出力順を設定できる。
1	-	4	-	2	-	13			バーコードラベルのレイアウトは容器単位で設定ができる。
1	-	4	-	2	-	14			バーコードラベルのレイアウト作成は、プレビュー画面を表示し確認しながら、印字アイテム、印字位置の登録ができる。
1	-	4	-	2	-	15			電子カルテのバーコード規則に合わせたバーコード生成ができる。また、検査システム独自のバーコード生成もできる。
1	-	4	-	2	-	16			検体ラベル、分注ラベルは保存方法別に印刷できる。
1	-	4	-	2	-	17			特定のオーダーが存在する場合、専用のメッセージラベルが印刷できる。

1	-	4	-	2	-	18			検査ラベルはラベルを見て再発行ラベルか区別できる。
1	-	4	-	3					患者到着確認
1	-	4	-	3	-	1			当日依頼のみ、または指定された日数分の過去・未来依頼を含む検索ができる。
1	-	4	-	3	-	2			患者到着実施時に、依頼に関連する各種ラベルが印刷できる。印刷対象は、未印刷のものに限る。
1	-	4	-	3	-	3			患者ID入力時に即ラベル発行ができる。また、条件により画面指示でのラベル発行とできる。
1	-	4	-	3	-	4			即ラベル発行としない条件は以下の指定ができる。
1	-	4	-	3	-	4	-	1	◦ 入外区分の指定
1	-	4	-	3	-	4	-	2	◦ 複数依頼の指定
1	-	4	-	3	-	4	-	3	◦ 依頼コメント、依頼フリーコメントの有無
1	-	4	-	3	-	5			患者到着画面において、依頼に紐づくコメント情報、採血管情報・依頼検査項目情報の確認ができる。
1	-	4	-	3	-	6			同一患者複数依頼がある場合、採血管準備装置に対して患者単位に纏める事ができる。(採血管準備装置の仕様による)
1	-	4	-	3	-	7			採血時の引継ぎ事項をコメント入力し、検査室に特記事項として共有できる。
1	-	4	-	4					検体到着確認(受領、検体取消しを含む)
1	-	4	-	4	-	1			バーコードリーダーまたは手入力による検体到着確認ができる。
1	-	4	-	4	-	2			到着済み検体の通知ができる。
1	-	4	-	4	-	3			到着確認可能期間が設定できる。また、警告メッセージを表示して到着可能とする期間が設定できる。
1	-	4	-	4	-	4			設定により到着処理時に以下の方法で通知する事ができる。
1	-	4	-	4	-	4	-	1	◦ 画面表示
1	-	4	-	4	-	4	-	2	◦ メッセージポップ
1	-	4	-	4	-	4	-	3	◦ アラート音
1	-	4	-	4	-	5			特定の項目、依頼コメントがある場合、依頼フリーコメント有無によりメッセージを表示できる。
1	-	4	-	4	-	6			特殊な前処理が必要な検査項目が依頼されている場合に、設定された取扱いメッセージを表示できる。
1	-	4	-	4	-	7			端末単位に到着可能部門の設定ができる。
1	-	4	-	4	-	8			到着確認時に部門単位に到着番号を付番できる。また、付番された番号が各画面上で確認できる。
1	-	4	-	4	-	9			到着確認時にマスター登録されている結果値、結果コメントを自動で初期値として登録できる。
1	-	4	-	4	-	10			身長・体重・尿量を入力可能とし、入力値は検査結果として計算式に利用することができる。
1	-	4	-	4	-	11			患者属性、各種コメントなどの関連情報を表示できる。また、検体毎にコメント入力できる。
1	-	4	-	4	-	12			到着確認の履歴が一覧表示できる。
1	-	4	-	4	-	13			到着処理時に到着検体に関連する分注ラベルの出力ができる。
1	-	4	-	4	-	14			分注ラベルの出力有無、出力先は端末単位に設定ができる。
1	-	4	-	4	-	15			検査室での検体受領管理(受取確認者・受取時刻)ができる。
1	-	4	-	4	-	16			テクノメディカ社のRFID連携による一括検体受領登録、または、到着確認ができる。(RFIDの仕様による)
1	-	4	-	4	-	17			「凝固時間」などの特殊項目の入力ができる
1	-	4	-	4	-	18			便潜血検査において、2日目を先に到着した場合、1日目が未到着である事をポップアップなどで通知できる。
1	-	4	-	4	-	19			到着時、同一材料の細菌オーダーが存在する場合、ポップアップや専用ラベルを出力し通知できる。
1	-	4	-	5					検体到着状況管理
1	-	4	-	5	-	1			検体の到着状況を一覧表示できる。
1	-	4	-	5	-	2			分注検体情報の一覧表示ができる。
1	-	4	-	5	-	3			一覧表示する為の検索条件として、以下の指示ができる。また、各条件は含む、含まないも指定できる。
1	-	4	-	5	-	3	-	1	◦ 容器グループ
1	-	4	-	5	-	3	-	2	◦ 到着区分(到着済み、一部未到着、全未到着、至急のみ)
1	-	4	-	5	-	3	-	3	◦ ラベル発行状況(発行済み・未発行)
1	-	4	-	5	-	3	-	4	◦ 指定された検査項目を含む検体(検索セット項目)
1	-	4	-	5	-	4			一覧にて選択された検体に紐づく、依頼検査項目の表示ができる。
1	-	4	-	5	-	5			一覧表示する情報には、以下情報の表示ができる。また、表示内容は設定により指定できる。
1	-	4	-	5	-	5	-	1	◦ 検査依頼情報(診療科/病棟、依頼医、各種コメント)
1	-	4	-	5	-	5	-	2	◦ ラベル発行状況(発行時間、発行場所)
1	-	4	-	5	-	5	-	3	◦ 患者到着時間、採血開始・終了時間(採血管準備装置の仕様による)
1	-	4	-	5	-	6			一覧にて選択された検体の到着確認処理ができる。
1	-	4	-	5	-	7			検体のキャンセル処理ができる。また、キャンセルした検体の復帰もできる。
1	-	4	-	6					稼働状況管理
1	-	4	-	6	-	1			予約状況から、検査件数の予測、依頼医師の確認などができる。
1	-	4	-	6	-	2			日付を指定し業務量予測に必要な以下の情報が表示できる。
1	-	4	-	6	-	2	-	1	◦ 採血依頼数の予定数
1	-	4	-	6	-	2	-	2	◦ 依頼総数と内訳(入院・外来・依頼医師)の予定数
1	-	4	-	6	-	2	-	3	◦ 患者コメントが登録されている患者名とコメント内容のリスト
1	-	4	-	6	-	2	-	4	◦ 採取容器毎の予定数／実績数
1	-	4	-	6	-	2	-	5	◦ マニュアル検査や感染症検査など通常の検査より手間のかかる項目がある依頼数の予定数／実績数
1	-	4	-	7					ワークシート作成
1	-	4	-	7	-	1			検査日、ワークシートコードを指定し、ワークシートを作成できる。また、作成済みワークシート情報の表示ができる。
1	-	4	-	7	-	2			設定により到着確認時にワークシートが自動作成(到着確認時)できる。

1	-	4	-	7	-	3			設定によりバーコードを読み込んだ順にワークシートを作成できる。
1	-	4	-	7	-	4			設定により未検査・未承認のワークシート情報を前日から持ち越しできる。また、持ち越しされたワークシート情報は、当日の先頭からシーケンスが採番できる。
1	-	4	-	7	-	5			ワークシートシーケンスの採番は、検査依頼番号順・到着部門番号順を指定できる。
1	-	4	-	7	-	6			作成したワークシート情報の再作成(検査済み検体を除外して再作成)ができる。
1	-	4	-	7	-	7			作成したワークシート情報の印刷ができる。
1	-	4	-	7	-	8			印刷レイアウトは、設定により指定できる。また、印刷指示画面より設定されたレイアウトから変更もできる。
1	-	4	-	7	-	9			印刷はワークシートシーケンス順で印刷できる。また、前回値、検査済み項目の印刷有無を選択できる。
1	-	4	-	7	-	10			ワークシートに参照項目(ワークシート作成に関与しない項目)の印刷ができる。
1	-	4	-	8					測定順管理
1	-	4	-	8	-	1			分析装置側の測定順に合わせて、検体検査システムの受信順を登録する事で、依頼情報連携、測定結果連携ができる。
1	-	4	-	8	-	2			分析装置単位にバーコードを読み込ませた順番に受信順が登録できる。
1	-	4	-	8	-	3			1回の測定後受信番号はクリアされずに継続して受信順を登録できる。また、受信番号をクリアする事もできる。
1	-	4	-	8	-	4			受信順を登録したバーコードより患者名、診療科/病棟などの属性情報を一覧表示できる。
1	-	4	-	9					検体照合
1	-	4	-	9	-	1			同一依頼内の親検体・子検体の照合ができる。
1	-	4	-	9	-	2			同一患者の別オーダー検体の照合ができる。
1	-	4	-	9	-	3			照合先は設定により同一検体番号の照合ができる。
1	-	4	-	9	-	4			照合結果はログとして保存され、必要に応じて参照できる。
1	-	5							検査実施業務
1	-	5	-	1					リアルタイムデータチェック
1	-	5	-	1	-	1			検査結果の更新時、項目毎にリアルタイムにデータチェックを行い、再検判定ができる。また、手入力の結果に対してもデータチェックができる。
1	-	5	-	1	-	2			データチェックは以下のチェック内容(パラメータ)を項目単位に設定できる。また、各設定は性別かつ年齢別に設定ができる。
1	-	5	-	1	-	2	-	1	◦ 基準値チェック
1	-	5	-	1	-	2	-	2	◦ 再検値チェック
1	-	5	-	1	-	2	-	3	◦ パニック値チェック
1	-	5	-	1	-	2	-	4	◦ 前回値(差・比)チェック
1	-	5	-	1	-	2	-	5	◦ 変動値(差・比)チェック
1	-	5	-	1	-	3			年齢別設定は、1歳未満は1ヶ月毎(月齢)、1ヶ月未満は1日毎(日齢)の設定ができる。
1	-	5	-	1	-	4			性別・年齢別それぞれの組合せに設定数の制限なく登録できる。
1	-	5	-	1	-	5			定性値の検査項目に対しても、パラメータでのチェックが設定できる。
1	-	5	-	1	-	6			他の検査項目の結果値で計算を行う項目は、マスターに計算式を設定することで、結果更新時に自動計算できる。
1	-	5	-	1	-	7			設定された計算項目の要素に数値以外の結果が登録されている場合に計算結果として任意の結果値を自動登録できる。
1	-	5	-	1	-	8			設定により定量値を定性値・半定量値に自動変換できる。
1	-	5	-	1	-	9			設定により測定単位(CBCなど)あるいは関連項目単位(PTsec、PT%など)に自動登録・承認ができる。
1	-	5	-	1	-	10			結果登録時にマスター設定により自動的に結果コメントを登録できる。
1	-	5	-	1	-	11			再検査実施時にマスター設定により自動的に結果コメントを登録できる。
1	-	5	-	1	-	12			一時的にダブルチェックのために結果承認が行えないようにする、結果コード、結果コメントが設定できる。
1	-	5	-	1	-	13			前回値チェックの対象としない結果コード、結果コメントが設定できる。
1	-	5	-	2					動作設定
1	-	5	-	2	-	1			判定条件に該当する場合に、設定された動作ができる。また、これらの設定をマスターで設定できる。
1	-	5	-	2	-	2			設定毎に業務、又は、分析装置連携単位に適用可否を設定できる。
1	-	5	-	2	-	3			結果更新時(外部連携、画面更新)に処理できる。
1	-	5	-	2	-	4			以下の判定条件の設定ができる。
1	-	5	-	2	-	4	-	1	◦ 結果値、分析装置のエラー情報、フラグメッセージ、依頼情報、患者属性の判定
1	-	5	-	2	-	4	-	2	◦ 複数条件の組み合わせ
1	-	5	-	2	-	4	-	3	◦ 検査項目単位、グループ単位での設定
1	-	5	-	2	-	4	-	4	◦ 前回値の判定
1	-	5	-	2	-	5			以下の動作の設定ができる。
1	-	5	-	2	-	5	-	1	◦ 結果値の再検、保留、確定の指示、特定の結果値のセット
1	-	5	-	2	-	5	-	2	◦ 検査項目の依頼追加、目視追加
1	-	5	-	2	-	5	-	3	◦ 項目グループを対象とした操作
1	-	5	-	2	-	5	-	4	◦ ポップアップ表示、アラート音の発生等の操作
1	-	5	-	2	-	6			画面の保存・承認前のデータチェックに該当した場合、警告画面を表示し、選択により更新操作をキャンセルできる。
1	-	5	-	3					パニック管理
1	-	5	-	3	-	1			パニック値発生の項目単位に、報告有無、報告内容、連絡日時の登録・管理ができる。
1	-	5	-	3	-	2			パニック値が発生している依頼の抽出ができる。
1	-	5	-	3	-	3			パニック値処理を実施していない依頼情報の抽出ができる。
1	-	5	-	3	-	4			報告先の担当医師・連絡先が表示できる。
1	-	5	-	3	-	5			パニック値が発生している検査項目・検査結果が参照できる。

1	-	5	-	3	-	6			対象依頼の全項目の結果が参照できる。また、前回値も参照できる。
1	-	5	-	3	-	7			パニック管理されている情報の一覧をファイル出力(CSV形式)できる。
1	-	5	-	3	-	8			ファイル出力(CSV形式)ではパニック管理で管理されている全ての情報が出力できる。また、出力内容を設定により変更できる。
1	-	5	-	3	-	9			ファイル出力(CSV形式)では指定された条件(検査項目、診療科/病棟など)に該当するパニック情報のみを抽出できる。
1	-	5	-	4					分析装置連携
1	-	5	-	4	-	1			バーコードを元に依頼情報連携、測定結果連携ができる。
1	-	5	-	4	-	2			到着部門番号・ワークシートシーケンスを元に、依頼情報問合せ受信、測定依頼送信、測定結果受信の連携ができる。
1	-	5	-	4	-	3			事前送信が必要な分析装置に対し、検査依頼情報を到着確認時に分析装置に送信できる。
1	-	5	-	4	-	4			測定依頼を送信した検査項目の測定完了予定日時が設定に従って自動計算できる。
1	-	5	-	4	-	5			未到着検体の依頼情報連携時・結果情報受信時に自動で検体到着を実施できる。
1	-	5	-	4	-	6			分析装置との依頼情報連携は以下の機能を有する。
1	-	5	-	4	-	6	-	1	◦ 初回検査前に前回値をもとにした希釈情報を送信できる。(分析装置の仕様による)
1	-	5	-	4	-	6	-	2	◦ 受信結果値に基づき、2回目以降の検査において設定に応じて希釈情報を送信できる。(分析装置の仕様による)
1	-	5	-	4	-	6	-	3	◦ 希釈情報は自動設定以外にマニュアルでの倍率指定ができる。(分析装置の仕様による)
1	-	5	-	4	-	6	-	4	◦ 特定の条件に該当する場合は、自動的に測定項目の追加ができる。(分析装置の仕様による)
1	-	5	-	4	-	6	-	5	◦ 特定病棟・診療科によるフルオーダーで測定できる。(分析装置の仕様による)
1	-	5	-	4	-	7			分析装置との測定結果連携は以下の機能を有する。
1	-	5	-	4	-	7	-	1	◦ 受信した希釈情報を測定回ごとに保存できる。
1	-	5	-	4	-	7	-	2	◦ 受信した希釈情報を検査項目情報の結果値として取得・表示ができる。
1	-	5	-	4	-	7	-	3	◦ 測定した分析装置名称を検査項目情報の結果値として取得・表示ができる。※号機情報も含む
1	-	5	-	4	-	7	-	4	◦ 検査項目別、測定回別に測定分析装置名称(号機)、ラック、ラックポジション情報の取得・表示ができる。
1	-	5	-	4	-	7	-	5	◦ 承認済項目に対して結果受信した場合、測定結果として保存はするが報告値を書き換えないようにできる。
1	-	5	-	4	-	7	-	6	◦ 結果値・フラグメッセージにより目視検査の依頼が自動追加できる。
1	-	5	-	4	-	7	-	7	◦ パニック値の検査結果を受信した場合、ユーザーに通知できる。
1	-	5	-	4	-	7	-	8	◦ 依頼のない測定結果の取得ができる。また、設定により自動的に依頼追加ができる。
1	-	5	-	4	-	7	-	9	◦ 依頼がある項目に対して、測定結果値が返却されない場合、特定の結果値を自動登録できる。
1	-	5	-	4	-	8			分析装置からのエラーコードを受信、表示できる。
1	-	5	-	4	-	9			分析装置のエラーコード受信処理は以下の機能を有する。
1	-	5	-	4	-	9	-	1	◦ エラーコードにより再検判定ができる。
1	-	5	-	4	-	9	-	2	◦ レンジオーバーエラー等のエラーコードの場合、結果値(上限値)に変換し取り込みができる。
1	-	5	-	4	-	9	-	3	◦ エラーコード情報は優先順位を付けて取得ができる。
1	-	5	-	4	-	9	-	4	◦ 分析装置からのエラーコード情報を、設定によりユーザーに通知できる。
1	-	5	-	4	-	10			分析装置からのフラグメッセージを受信、表示できる。また、測定回数別に管理できる。
1	-	5	-	4	-	11			分析装置のフラグメッセージ受信処理は以下の機能を有する。
1	-	5	-	4	-	11	-	1	◦ フラグメッセージにより再検判定ができる。
1	-	5	-	4	-	11	-	2	◦ 設定によりフラグメッセージを検査項目の結果として受信できる。
1	-	5	-	4	-	11	-	3	◦ 受信するフラグメッセージ情報を全て取得、表示できる。
1	-	5	-	4	-	11	-	4	◦ 分析装置からのフラグメッセージ情報を、設定によりユーザーに通知できる。
1	-	5	-	4	-	12			血液分析装置、尿中有形成成分分析装置のスクアッタグラム、ヒストグラムの受信に対応できる。
1	-	5	-	4	-	13			スクアッタグラム画像は、測定回数別に管理できる。
1	-	5	-	4	-	14			画像、文書(PDF・FTP・XML・HTML)の受信に対応できる。(分析装置の仕様による)
1	-	5	-	4	-	15			精度管理データを分析装置からオンラインで取込むことができる。(分析装置の仕様による)
1	-	5	-	4	-	16			精度管理バーコード(コントロールバーコード)を用いて分析装置と連携(依頼情報、結果情報)できる。(分析装置の仕様による)
1	-	5	-	4	-	17			接続される全分析装置へ送信する個人情報を設定により制御できる。
1	-	5	-	4	-	18			機器からの依頼情報連携、結果情報連携を元に下記ポップアップが表示できる。
1	-	5	-	4	-	18	-	1	◦ ラベル間違い、異なる容器が投入された場合のポップアップまたはアラート音で知らせること。(依頼情報連携)
1	-	5	-	4	-	18	-	2	◦ 搭載機器間違い、測定項目なしによるポップアップまたはアラート音で知らせること。(依頼情報連携)
1	-	5	-	4	-	18	-	3	◦ 前回値の変動、特定診療科かつ特定結果値の場合など、結果値チェックによるポップアップまたはアラート音で知らせること。(結果情報連携)
1	-	5	-	5					検索情報表示
1	-	5	-	5	-	1			各業務は共通した画面により検索条件の指定・抽出ができる。
1	-	5	-	5	-	2			検索条件では範囲検索と個別検索の選択ができる。
1	-	5	-	5	-	3			範囲検索、個別検索共に以下検索条件の指定ができる。
1	-	5	-	5	-	3	-	1	◦ 依頼日・依頼番号検索
1	-	5	-	5	-	3	-	2	◦ 到着日・到着部門・到着部門番号検索
1	-	5	-	5	-	3	-	3	◦ 到着日・到着番号検索
1	-	5	-	5	-	4			範囲検索では上記検索条件以外に、以下の追加条件を指定できる。また、各条件は複数指定できる。
1	-	5	-	5	-	4	-	1	◦ 検査区分(通常・至急)
1	-	5	-	5	-	4	-	2	◦ 入外区分(外来・入院)
1	-	5	-	5	-	4	-	3	◦ 診療科/病棟

1	-	5	-	5	-	4	-	4	◦ 依頼医
1	-	5	-	5	-	5			個別検索では上記検索条件以外に、以下の追加条件を指定できる。
1	-	5	-	5	-	5	-	1	◦ バーコード(検体番号)
1	-	5	-	5	-	5	-	2	◦ HIS番号(オーダー番号)
1	-	5	-	5	-	5	-	3	◦ 患者 I D
1	-	5	-	5	-	5	-	4	◦ 患者名
1	-	5	-	6					付加情報表示
1	-	5	-	6	-	1			依頼が特定されている画面ではどの業務においても共通の付加情報が参照できる。
1	-	5	-	6	-	2			付加情報には、以下情報が表示できる。
1	-	5	-	6	-	2	-	1	◦ TAT情報
1	-	5	-	6	-	2	-	2	◦ IPメッセージ情報
1	-	5	-	6	-	2	-	3	◦ 検体情報(容器情報)
1	-	5	-	6	-	2	-	4	◦ 報告書情報
1	-	5	-	6	-	2	-	5	◦ 属性情報
1	-	5	-	6	-	3			TAT情報には対象依頼の各種TAT情報(実施時間)が表示できる。また、部門別、グループ別の進捗状況の表示ができる。
1	-	5	-	6	-	4			IPメッセージ情報には分析装置から受信した測定フラグメッセージ、波形・グラフ(スカッタグラム画像など)が表示できる。また、それぞれ測定回数分の表示ができる。(分析装置の仕様による)
1	-	5	-	6	-	5			スカッタグラム画像は時系列表示ができる。
1	-	5	-	6	-	6			スカッタグラム画像は画像をクリックすることで拡大表示ができる。
1	-	5	-	6	-	7			IPメッセージ情報は表示順の指定ができる。また、特定の情報は文字色を変更し強調表示できる。
1	-	5	-	6	-	8			検体情報には容器単位の到着時間、進捗状況が表示できる。
1	-	5	-	6	-	9			容器情報の詳細として検体残量情報としての検体画像の表示ができる。(収納装置画像連携ありの場合)(分析装置の仕様による)
1	-	5	-	6	-	10			報告書情報には対象依頼に該当する報告書情報と発行状況が表示できる。
1	-	5	-	6	-	11			属性情報には氏名・生年月日・性別などの患者属性、コメント、依頼医、診療科/病棟などの依頼属性が表示できる。
1	-	5	-	6	-	12			付加情報は参照しない場合は最小化できる。また、最小化された場合でも必要時にワンクリックで表示できる。
1	-	5	-	7					コメント入力
1	-	5	-	7	-	1			検体単位に検体依頼コメント、検体依頼フリーコメントが登録できる。
1	-	5	-	7	-	2			検体単位に検体報告コメント、検体報告フリーコメントが登録できる。
1	-	5	-	7	-	3			依頼単位に報告フリーコメントが登録できる。また、報告フリーコメントは10枠登録ができる。
1	-	5	-	7	-	4			報告フリーコメントは各枠毎にタイトルを設定できる。
1	-	5	-	8					検査進捗状況表示
1	-	5	-	8	-	1			設定されたグループ別に進捗状況を一覧表示できる。また、進捗状況はマークで分かりやすく表示できる。
1	-	5	-	8	-	2			一覧にはグループ単位の進捗マークと合わせて患者属性、依頼情報の表示ができる。また、表示内容は設定により端末単位に変更できる。
1	-	5	-	8	-	3			表示するグループはユーザー毎に保存できる。また、複数の表示グループ設定を容易に切替できる。
1	-	5	-	8	-	4			ワークシートコードの指定による検索・表示ができる。
1	-	5	-	5	-	5			検索の付加条件として、以下条件での抽出ができる。また、各条件は複数指定できる。
1	-	5	-	8	-	5	-	1	◦ 検査進捗状況区分(未到着、未検査、検査中、保留有、再検有、再検中、再検済、一部検査済、検査済、承認済、再検測定後の承認済など)
1	-	5	-	8	-	5	-	2	◦ 遅延区分
1	-	5	-	8	-	5	-	3	◦ パニック管理区分
1	-	5	-	8	-	5	-	4	◦ 目視情報区分
1	-	5	-	8	-	6			一覧は指定した時間間隔で最新情報に自動更新できる。
1	-	5	-	8	-	7			到着確認時間から結果承認までの経過時間が表示できる。また、項目単位に遅延時間の設定ができる。
1	-	5	-	8	-	8			遅延が発生している依頼に対してマークで表示できる。また、遅延判定は通常・至急により閾値設定ができる。
1	-	5	-	8	-	9			遅延の判定は、表示グループ内の項目単位にチェックできる。
1	-	5	-	8	-	10			パニック値が発生している依頼に対してマークで表示できる。
1	-	5	-	8	-	11			グループ単位に測定完了予定時刻や残り〇分などの表示ができる。
1	-	5	-	8	-	12			一覧から対象グループを指定し、一括で承認ができる。
1	-	5	-	8	-	13			再検なしの承認済、再検測定後の承認済は、進捗マーク(色やマーク)を変更するか、もしくは再検時は再検回数を表示できること。
1	-	5	-	8	-	14			特定の状況グループが含まれるかつ特定の患者コメントが登録されているオーダーの結果入力画面に遷移する場合、特定の患者コメントが含まれるオーダーであるポップアップメッセージを表示する。
1	-	5	-	9					結果入力・承認
1	-	5	-	9	-	1			結果入力は保存登録、仮承認登録、承認登録ができる。
1	-	5	-	9	-	2			検査結果は1回目・2回目・3回目と履歴情報として表示できる。また、履歴情報より報告値を選択できる。
1	-	5	-	9	-	3			報告値として選択した検査結果は、背景色を変えることで判別できる。
1	-	5	-	9	-	4			検査結果の表示回数が6回目以降も表示・管理できる。
1	-	5	-	9	-	5			検査結果と合わせて前回値情報を表示できる。また、前回値情報は設定により複数回の表示ができる。
1	-	5	-	9	-	6			検査項目単位に再検区分(再検・保留・再検済)を表示できる。また、再検区分の編集ができる。

1	-	5	-	9	-	7			検査項目単位に承認状態の解除ができる。
1	-	5	-	9	-	8			検査項目単位に分析装置依頼送信状態を解除できる。
1	-	5	-	9	-	9			計算項目に対して手入力ができる。また、手入力した場合は計算された結果が上書きされないよう制御できる。
1	-	5	-	9	-	10			検査項目ごとに必要な結果コードを設定し、参照ウィンドウに表示できる。
1	-	5	-	9	-	11			結果コメント・結果フリーコメントを登録・修正・削除できる。
1	-	5	-	9	-	12			結果コメントの入力候補を参照ウィンドウから選択できる。
1	-	5	-	9	-	13			検査依頼の時系列表示モードへ切り替えできる。また、指定した項目のみ表示する時系列表示ができる。
1	-	5	-	9	-	14			依頼のない結果を分析装置から受信した場合、参照項目として表示できる。
1	-	5	-	9	-	15			表示される検査項目情報の付加情報として以下情報の表示ができる。また、表示有無は設定により変更できる。
1	-	5	-	9	-	15	-	1	◦ 項目情報(コード、名称、単位)
1	-	5	-	9	-	15	-	2	◦ 基準値情報
1	-	5	-	9	-	15	-	3	◦ 採血管情報(材料、容器、負荷、保存方法)
1	-	5	-	9	-	15	-	4	◦ 希釈情報(次回測定時の希釈倍率)
1	-	5	-	9	-	15	-	5	◦ TAT情報(到着時間、遅延有無)
1	-	5	-	9	-	16			表示される検査結果情報の付加情報として以下情報を履歴回数毎に表示ができる。また、表示有無は設定により変更できる。
1	-	5	-	9	-	16	-	1	◦ 結果値情報 ※基準値、再検値、パニック値などの範囲設定ごとに文字色を変更できる
1	-	5	-	9	-	16	-	2	◦ 測定値情報 ※分析装置から受信した結果値(変換前の情報)
1	-	5	-	9	-	16	-	3	◦ 結果コメント情報(結果コメント、結果フリーコメント)
1	-	5	-	9	-	16	-	4	◦ マーク情報(L/H、再検理由、分析装置エラー)
1	-	5	-	9	-	16	-	5	◦ 測定機器情報(測定機器名称、ラック/ポジション)
1	-	5	-	9	-	16	-	6	◦ 希釈情報(測定時の希釈倍率)
1	-	5	-	9	-	17			検査項目名称にマウスオーバーすることで、以下詳細情報が表示できる。
1	-	5	-	9	-	17	-	1	◦ 項目情報(コード、名称、単位、結果形式)
1	-	5	-	9	-	17	-	2	◦ パラメータ情報(基準値、再検値、パニック値)
1	-	5	-	9	-	17	-	3	◦ 採血管情報(材料、容器、負荷、保存方法、採取量)
1	-	5	-	9	-	17	-	4	◦ TAT情報(到着日時、承認日時、報告日時)
1	-	5	-	9	-	18			手入力した結果は、進捗状況表示のステータス(状況)に反映することができる。
1	-	5	-	9	-	19			承認対象とするグループを選択し一括で承認できる。
1	-	5	-	9	-	20			検査結果、結果コメントの一括入力ができる。また、一括登録する検査項目は選択ができる。
1	-	5	-	9	-	21			バーコードエラーなどにより検査依頼へ自動紐付できない検査結果を、任意の検査依頼に手動で紐付できる。
1	-	5	-	9	-	22			検査結果情報の次回希釈は任意に変更できる。また、マスター設定値からの任意選択ができる。
1	-	5	-	9	-	23			検査結果情報の手動希釈倍率を設定できる。また、希釈倍率に応じて検査結果が自動計算できる。
1	-	5	-	9	-	24			表示されている検査結果を他のオーダー・同一患者へコピーできる。
1	-	5	-	9	-	25			ICG報告書など、専用のExcelテンプレートを使った報告書を作成・出力できる。
1	-	5	-	9	-	25	-	1	作成予定の報告書をプレビュー表示できる。
1	-	5	-	9	-	25	-	2	PDFファイルでの画像報告書を作成、画像管理業務に登録できる。
1	-	5	-	9	-	26			承認時に特定項目の結果値が登録されていない場合、エラーメッセージを表示、承認をキャンセルできる。
1	-	5	-	10					検査状況表示
1	-	5	-	10	-	1			設定されたグループ別にTAT情報を個別表示できる。また、遅延が発生している状況を強調表示できる。
1	-	5	-	10	-	2			検査依頼日、又は、到着日・到着時間を指定し検索・表示ができる。また、依頼日での検索ではラベル発行状況による指定ができる。
1	-	5	-	10	-	3			遅延が発生している情報のみを検索できる。又、検査完了済みの情報は検索対象外にできる。
1	-	5	-	10	-	4			表示順は到着時間順、経過時間順、ラベル発行時間順で指定できる。
1	-	5	-	10	-	5			一覧は指定した時間間隔で最新情報に自動更新できる。
1	-	5	-	10	-	6			一覧に表示される時間情報は設定により表示内容を指定できる。
1	-	5	-	10	-	7			一覧に表示される時間情報は各時間毎の経過時間を表示できる。また、経過時間毎に遅延判断ができる。
1	-	5	-	10	-	8			遅延と判断する時間は、グループ別に設定できる。
1	-	5	-	10	-	9			一覧表示されている内容をファイル出力(CSV形式)できる。
1	-	5	-	11					ワークシート別結果入力
1	-	5	-	11	-	1			ワークシート、検査日、シーケンスを指定し指定したワークシート形式で結果入力できる。
1	-	5	-	11	-	2			結果入力情報は保存登録、仮承認登録、承認登録ができる。
1	-	5	-	11	-	3			検査結果の確認時に前回値を表示できる。
1	-	5	-	11	-	4			検査項目ごとに必要な結果コードを設定し、参照ウィンドウに表示できる。
1	-	5	-	11	-	5			結果コメントを登録・修正・削除できる。
1	-	5	-	11	-	6			結果コメントの入力候補を参照ウィンドウから選択できる。
1	-	5	-	11	-	7			依頼日・依頼番号、到着日・到着部門番号を指定し、検査項目(複数指定可)を指定する事で指定検査項目の依頼一覧が表示できる。また、一覧で結果編集ができる。
1	-	5	-	11	-	8			結果入力は1検査結果を入力後、カーソルを下に移動するか横に移動するかを選択できる。
1	-	5	-	11	-	9			表示から登録までの間に別端末・処理で編集された情報があった場合、警告表示され該当依頼情報のみ更新処理をスキップできる。

1	-	5	-	12				血液像カウンター
1	-	5	-	12	-	1		指定された依頼単位毎に血液像のカウンター業務ができる。
1	-	5	-	12	-	2		一覧表示された依頼情報から選択してカウンター業務ができる。
1	-	5	-	12	-	3		目視対象の依頼ではない場合、注意喚起のメッセージが表示できる。また、目視対象外の依頼でも目視を実施できる。
1	-	5	-	12	-	4		レイアウト、キー配列はユーザーが設定できる。また、材料ごとに違うレイアウトおよびキー配列が設定ができる。
1	-	5	-	12	-	5		キー配列毎に打鍵音を設定できる。また、加算と減算で別の音を設定できる。
1	-	5	-	12	-	6		カウント時に機械値を参照できる。また、機械値の前回値も参照できる。
1	-	5	-	12	-	7		カウント値は個数と%が同時に確認できる。
1	-	5	-	12	-	8		前回値は複数回表示できる。また、表示回数は設定で変更できる。
1	-	5	-	12	-	9		機械値と目視値の前回値取得元が異なる場合に通知ができる。
1	-	5	-	12	-	10		機械項目、カウント項目、形態コメントの時系列が参照できる。
1	-	5	-	12	-	11		設定された他部門検査項目の結果値を参照(結果変更不可)できる。また、前回値も複数回参照できる。
1	-	5	-	12	-	12		カウント結果はカウント・参照入力および直接入力することができる。また、カウントされた項目を依頼追加できる。
1	-	5	-	12	-	13		カウント項目に対し、結果コメントを入力できる。
1	-	5	-	12	-	14		複数のカウント項目に対して、同一の結果値および結果コメントを入力できる。
1	-	5	-	12	-	15		Other項目に対応できる。また、時系列も参照できる。
1	-	5	-	12	-	16		Other項目として選択された項目を依頼追加できる。
1	-	5	-	12	-	17		形態コメントの入力ができる。また、前回形態コメントの参照もできる。
1	-	5	-	12	-	18		カウントを実施した技師をログインユーザーから取得し、カウント履歴に保存できる。
1	-	5	-	12	-	19		カウントは加算、減算の切り替えができる。
1	-	5	-	12	-	20		指定したカウント上限数に達したとき、ブザー音を鳴らし一時停止して継続カウントするかを選択できる。
1	-	5	-	12	-	21		追加カウントは指定した追加カウント数に達したときにブザー音を鳴らし、一時停止して再び継続カウントするかを選択できる。
1	-	5	-	12	-	22		カウント上限、追加カウント数に関係なく、任意のタイミングでカウントを終了できる。
1	-	5	-	12	-	23		設定により100%補正ができる。
1	-	5	-	12	-	24		未カウント時(カウント値が0)でも承認できる。
1	-	5	-	12	-	25		報告値は個数と%どちらを採用するか設定できる。
1	-	5	-	12	-	26		Totalに含めないカウント項目の設定ができる。
1	-	5	-	12	-	27		未カウント項目に対して、設定された結果値を自動的に登録ができる。また、検査項目の依頼追加ができる。
1	-	5	-	12	-	28		カウント値を保存できる。また、保存されたカウント値は履歴管理できる。
1	-	5	-	12	-	29		カウント履歴にある情報からカウント情報を呼出し、編集・承認ができる。また、編集した場合は新規のカウント値として保存できる。
1	-	5	-	12	-	30		カウント履歴にある情報から削除・承認解除ができる。
1	-	5	-	12	-	31		撮影画像の取り込みができる。また、取り込んだ画像にコメント登録ができる。
1	-	5	-	12	-	32		オーダー情報展開時、画像フォルダに既に画像が格納されている場合アラート表示ができる。
1	-	5	-	12	-	33		目視理由の表示ができる。
1	-	5	-	12	-	34		テストモードで起動しカウントを行うことができる。
1	-	5	-	12	-	35		シスメックス機器から受信されるIPメッセージ情報を「WBC系」「RBC系」「PLT系」に分けて表示ができる。
1	-	5	-	12	-	36		機械値をクリックすることで、関連カウント項目の情報を表示・比較できる。
1	-	5	-	12	-	37		休祝日、および平日の夜間帯の場合、機械値承認時の動作を変更することが出来る。
1	-	5	-	12	-	37	- 1	。休祝日、および夜間とする時間帯をマスターおよび設定画面にて設定できる。
1	-	5	-	12	-	37	- 2	。設定された休祝日・平日夜間帯に機械値承認された際、報告用フリーコメントが登録できる。フリーコメントは設定にて内容を指定できる。
1	-	5	-	13				尿沈渣カウンター
1	-	5	-	13	-	1		指定された依頼単位毎に尿沈渣のカウンター業務ができる。
1	-	5	-	13	-	2		一覧表示された依頼情報から選択してカウンター業務ができる。
1	-	5	-	13	-	3		目視対象の依頼ではない場合、注意喚起のメッセージが表示できる。また、目視対象外の依頼でも目視を実施できる。
1	-	5	-	13	-	4		レイアウト、キー配列はユーザーが設定できる。また、材料ごとに違うレイアウトおよびキー配列が設定ができる。
1	-	5	-	13	-	5		カウント項目単位に入力する結果値の候補を表示できる。
1	-	5	-	13	-	6		必須入力とする項目の設定ができる。また、必須入力項目が未入力の場合は注意喚起できる。
1	-	5	-	13	-	7		カウント時に機械値を参照できる。また、機械値の前回値も参照できる。
1	-	5	-	13	-	8		前回値は複数回表示できる。また、表示回数は設定で変更できる。
1	-	5	-	13	-	9		機械値と目視値の前回値取得元が異なる場合に通知ができる。
1	-	5	-	13	-	10		機械項目、カウント項目の時系列が参照できる。
1	-	5	-	13	-	11		設定された他部門検査項目の結果値を参照(結果変更不可)できる。また、前回値も複数回参照できる。
1	-	5	-	13	-	12		カウント結果はキー入力および参照入力することができる。また、カウントされた項目を依頼追加できる。
1	-	5	-	13	-	13		カウント項目に対し、結果コメントを入力できる。
1	-	5	-	13	-	14		複数のカウント項目に対して、同一の結果値および結果コメントを入力できる。
1	-	5	-	13	-	15		Other項目に対応できる。また、時系列も参照できる。
1	-	5	-	13	-	16		Other項目として選択された項目を依頼追加できる。
1	-	5	-	13	-	17		尿定性と尿沈渣のクロスチェックができる。
1	-	5	-	13	-	18		カウントを実施した技師をログインユーザーから取得し、カウント履歴に保存できる。

1	-	5	-	13	-	19		未カウント項目に対して、設定された結果値を自動的に登録ができる。また、検査項目の依頼追加ができる。
1	-	5	-	13	-	20		カウント値を保存できる。また、保存されたカウント値は履歴管理できる。
1	-	5	-	13	-	21		カウント履歴にある情報からカウント情報を呼出し、編集・承認ができる。また、編集した場合は新規のカウント値として保存できる。
1	-	5	-	13	-	22		カウント履歴にある情報から削除・承認解除ができる。
1	-	5	-	13	-	23		撮影画像の取り込みができる。また、取り込んだ画像にコメント登録ができる。
1	-	5	-	13	-	24		オーダー情報展開時、画像フォルダに既に画像が格納されている場合アラート表示ができる。
1	-	5	-	13	-	25		目視理由の表示ができる。
1	-	5	-	13	-	26		テストモードで起動しカウントを行うことができる。
1	-	5	-	13	-	27		シスメックス機器から受信される測定メッセージにおける、「リサーチインフォメーション」情報を専用枠で表示ができる。
1	-	5	-	13	-	28		休祝日、および平日の夜間帯の場合、機械値承認時の動作を変更することが出来る。
1	-	5	-	13	-	28	1	。休祝日、および夜間とする時間帯をマスターおよび設定画面にて設定できる。
1	-	5	-	13	-	28	2	。設定された休祝日・平日夜間帯に機械値承認された際、報告用フリーコメントが登録できる。フリーコメントは設定にて内容を指定できる。
1	-	5	-	13	-	29		潜血が乖離した際、専用のコメント(報告用フリーコメントまたは結果用の定型コメント)が登録できる。
1	-	5	-	14				骨髓像カウンター
1	-	5	-	14	-	1		指定された依頼単位毎に骨髓像のカウンター業務ができる。
1	-	5	-	14	-	2		一覧表示された依頼情報から選択してカウンター業務ができる。
1	-	5	-	14	-	3		目視対象の依頼ではない場合、注意喚起のメッセージが表示できる。また、目視対象外の依頼でも目視を実施できる。
1	-	5	-	14	-	4		骨髓像管理番号(システム通し番号、年番号、年月番号)の採番・管理ができる。また、管理番号により検索ができる。
1	-	5	-	14	-	5		レイアウト、キー配列はユーザーが設定できる。
1	-	5	-	14	-	6		キー配列毎に打鍵音を設定できる。また、加算と減算で別の音を設定できる。
1	-	5	-	14	-	7		カウント値は個数と%が同時に確認できる。
1	-	5	-	14	-	8		カウント項目、入力項目の前回値は複数回表示できる。また、表示回数は設定で変更できる。
1	-	5	-	14	-	9		カウント項目、入力項目の時系列が参照できる。
1	-	5	-	14	-	10		設定された他部門検査項目の結果値を参照(結果変更不可)できる。また、前回値も複数回参照できる。
1	-	5	-	14	-	11		カウント結果はカウント・参照入力および直接入力することができる。また、カウントされた項目を依頼追加できる。
1	-	5	-	14	-	12		カウント項目、入力項目に対し、結果コメントを入力できる。
1	-	5	-	14	-	13		複数のカウント項目に対して、同一の結果値および結果コメントを入力できる。
1	-	5	-	14	-	14		Other項目に対応できる。また、時系列も参照できる。
1	-	5	-	14	-	15		Other項目として選択された項目を依頼追加できる。
1	-	5	-	14	-	16		カウントを実施した技師をログインユーザーから取得し、カウント履歴に保存できる。
1	-	5	-	14	-	17		カウントは加算、減算の切り替えができる。
1	-	5	-	14	-	18		指定したカウント上限数に達したとき、ブザー音を鳴らし一時停止して継続カウントするかを選択できる。
1	-	5	-	14	-	19		追加カウントは指定した追加カウント数に達したときにブザー音を鳴らし、一時停止して再び継続カウントするかを選択できる。
1	-	5	-	14	-	20		カウント上限、追加カウント数に関係なく、任意のタイミングでカウントを終了できる。
1	-	5	-	14	-	21		設定により100%補正ができる。
1	-	5	-	14	-	22		手入力項目のみを登録して承認できる。(カウント値0で承認できる)
1	-	5	-	14	-	23		報告値は個数と%どちらを採用するか設定できる。
1	-	5	-	14	-	24		Totalに含めないカウント項目の設定ができる。
1	-	5	-	14	-	25		カウント項目はMieroid、Erythroid、Otherに分類できそれぞれ小計の計算・表示ができる。また、任意に項目単位でグルーピングを行い、小計の計算・表示ができる。
1	-	5	-	14	-	26		M/E比(Mieroid合計数/Erythroid合計数)の計算・表示ができる。
1	-	5	-	14	-	27		未カウント項目に対して、設定された結果値を自動的に登録ができる。また、検査項目の依頼追加ができる。
1	-	5	-	14	-	28		カウント値を保存できる。また、保存されたカウント値は履歴管理できる。
1	-	5	-	14	-	29		カウント履歴にある情報からカウント情報を呼出し、編集・承認ができる。また、編集した場合は新規のカウント値として保存できる。
1	-	5	-	14	-	30		カウント履歴にある情報から削除・承認解除ができる。
1	-	5	-	14	-	31		撮影画像の取り込みができる。また、取り込んだ画像にコメント登録ができる。
1	-	5	-	14	-	32		オーダー情報展開時、画像フォルダに既に画像が格納されている場合アラート表示ができる。
1	-	5	-	14	-	33		テストモードで起動しカウントを行うことができる。
1	-	5	-	14	-	34		カウント履歴毎に所見入力し、保存できる。
1	-	5	-	14	-	35		所見登録は設定された内容から参照入力できる。
1	-	5	-	14	-	36		カウント値、所見情報、撮影画像が出力される報告書が作成できる。
1	-	5	-	14	-	37		報告書へ反映する画像は選択できる。
1	-	5	-	14	-	38		所見枠を設定により枠幅を変更できる。(行数、幅共に)
1	-	5	-	15				NAPカウンター
1	-	5	-	15	-	1		指定された依頼単位毎にNAPのカウンター業務ができる。
1	-	5	-	15	-	2		一覧表示された依頼情報から選択してカウンター業務ができる。
1	-	5	-	15	-	3		キー配列はユーザーが設定できる。
1	-	5	-	15	-	4		キー配列毎に打鍵音を設定できる。また、加算と減算で別の音を設定できる。

1	-	5	-	15	-	5			カウント項目の前回値が表示できる。
1	-	5	-	15	-	6			カウント結果はカウントおよび参照入力することができる。また、カウントされた項目を依頼追加できる。
1	-	5	-	15	-	7			カウント項目に対し、結果コメントを入力できる。
1	-	5	-	15	-	8			カウントを実施した技師をログインユーザーから取得し、カウント履歴に保存できる。
1	-	5	-	15	-	9			カウントは加算、減算の切り替えができる。
1	-	5	-	15	-	10			指定したカウント上限数に達したとき、ブザー音を鳴らし停止できる。
1	-	5	-	15	-	11			カウント上限数に関係なく、任意のタイミングでカウントを終了できる。
1	-	5	-	15	-	12			カウント項目より陽性率、スコアの計算・表示ができる。
1	-	5	-	15	-	13			未カウント項目に対して、設定された結果値を自動的に登録ができる。また、検査項目の依頼追加ができる。
1	-	5	-	15	-	14			カウント値を保存できる。また、保存されたカウント値は履歴管理できる。
1	-	5	-	15	-	15			カウント履歴にある情報からカウント情報を呼出し、編集・承認ができる。また、編集した場合は新規のカウント値として保存できる。
1	-	5	-	15	-	16			カウント履歴にある情報から削除・承認解除ができる。
1	-	5	-	16					汎用カウンター
1	-	5	-	16	-	1			指定された依頼単位毎に上記以外(血液像、尿沈渣、骨髓像、NAP)のカウンター業務ができる。
1	-	5	-	16	-	2			一覧表示された依頼情報から選択してカウンター業務ができる。
1	-	5	-	16	-	3			レイアウト、キー配列はユーザーが設定できる。また、用途ごとにレイアウトおよびキー配列が設定ができる。
1	-	5	-	16	-	4			キー配列毎に打鍵音を設定できる。また、加算と減算で別の音を設定できる。
1	-	5	-	16	-	5			カウント項目の前回値が表示できる。
1	-	5	-	16	-	6			カウント結果はカウント・参照入力および直接入力することができる。また、カウントされた項目を依頼追加できる。
1	-	5	-	16	-	7			カウント項目に対し、結果コメントを入力できる。
1	-	5	-	16	-	8			カウントを実施した技師をログインユーザーから取得し、カウント履歴に保存できる。
1	-	5	-	16	-	9			カウントは加算、減算の切り替えができる。
1	-	5	-	16	-	10			指定したカウント上限数に達したとき、ブザー音を鳴らし停止できる。
1	-	5	-	16	-	11			カウント上限数に関係なく、任意のタイミングでカウントを終了できる。
1	-	5	-	16	-	12			未カウント項目に対して、設定された結果値を自動的に登録ができる。また、検査項目の依頼追加ができる。
1	-	5	-	16	-	13			カウント値を保存できる。また、保存されたカウント値は履歴管理できる。
1	-	5	-	16	-	14			カウント履歴にある情報からカウント情報を呼出し、編集・承認ができる。また、編集した場合は新規のカウント値として保存できる。
1	-	5	-	16	-	15			カウント履歴にある情報から削除・承認解除ができる。
1	-	5	-	17					ベリファイ結果入力
1	-	5	-	17	-	1			ダブルインプットチェック(2人の入力結果に差異が無いことで承認可能)ができる。
1	-	5	-	17	-	2			1回目、2回目の結果入力は別ユーザーで登録できる。(同一ユーザーでは2回目の登録ができないこと)
1	-	5	-	17	-	3			2回目入力時は1回目の結果が参照できない。
1	-	5	-	17	-	4			1回目、2回目の結果入力内容が異なる場合は、承認は行われず不一致であることが認識できる。
1	-	5	-	18					検査中止入力
1	-	5	-	18	-	1			指定された依頼単位毎、又は、検体単位毎に検査中止入力ができる。
1	-	5	-	18	-	2			あらかじめ設定した検査中止用の結果値・結果コードを一括で入力できる。
1	-	5	-	18	-	3			依頼日・依頼番号など依頼を指定して検索した場合は依頼単位の検査中止入力ができる。
1	-	5	-	18	-	4			バーコード番号を指定して検索した場合は検体単位の検査中止入力ができる。
1	-	5	-	18	-	5			未到着検体を検査中止入力する場合は自動的に到着確認処理ができる。
1	-	5	-	18	-	6			検査中止入力を行う検査項目は以下条件から設定で選択できる。
1	-	5	-	18	-	6	-	1	◦ 未検査の検査項目のみ
1	-	5	-	18	-	6	-	2	◦ 未承認の検査項目のみ
1	-	5	-	18	-	6	-	3	◦ 全ての検査項目
1	-	5	-	18	-	7			目視項目に検査中止入力を適応するか設定で選択できる。
1	-	5	-	19					未検査状況表示
1	-	5	-	19	-	1			未検査のある依頼情報のみを抽出・一覧表示できる。
1	-	5	-	19	-	2			抽出される検査状態は未検査・未承認の選択ができる。
1	-	5	-	19	-	3			抽出される情報から外部委託項目を除外して抽出できる。
1	-	5	-	19	-	4			ワークシートコードを指定して、対象ワークシートの項目内で未検査情報の抽出ができる。
1	-	5	-	19	-	5			項目グループ(検索セット)を指定して、対象グループの項目内で未検査情報の抽出ができる。
1	-	5	-	19	-	6			情報一覧は画面表示と印刷の両方に対応できる。
1	-	6							結果報告業務
1	-	6	-	1					問合せ
1	-	6	-	1	-	1			検索条件を指定して絞り込みを行い、一覧から対象依頼を選択して検査結果の照会ができる。
1	-	6	-	1	-	2			依頼番号、患者ID、患者カナ名、検体番号(検体バーコード)、ホスト番号(オーダー番号)、診療科/病棟、依頼医の複合条件で検索できる。
1	-	6	-	1	-	3			検査項目にマウスオーバーすることでツールチップに項目の詳細情報(基準値、単位、容器、材料等)が表示できる。
1	-	6	-	1	-	4			検査結果明細(簡易報告書)の印刷ができる。また、プレビューができる。
1	-	6	-	1	-	5			選択した依頼を起点(今回)として過去の結果を時系列で照会できる。

1	-	6	-	1	-	6			時系列の表示回数に制限が無いこと(保存している結果は全て照会できる)。
1	-	6	-	1	-	7			時系列の表示項目は、今回の依頼項目を対象とするか、対象期間の全依頼項目を対象とするかを選択できる。
1	-	6	-	1	-	8			時系列の表示項目は、検索セット(表示項目をマスターで設定)で絞り込みができる。また、検索セットの指定条件を保存できる。
1	-	6	-	1	-	9			時系列は、透析前・後の情報が一致した検査履歴のみ表示するか、全て表示するか選択できる。
1	-	6	-	1	-	10			検査結果時系列(簡易報告書)の印刷ができる。また、プレビューができる。
1	-	6	-	1	-	11			対象項目を選択し、レーダーチャート、折れ線グラフの描画ができる。
1	-	6	-	2					台帳発行
1	-	6	-	2	-	1			台帳として、検査受付台帳、検査台帳、骨髓検査台帳を作成できる。
1	-	6	-	2	-	2			検査受付台帳は依頼内容(患者属性、依頼コメント、依頼セット、依頼項目)が確認できる。
1	-	6	-	2	-	3			検査台帳は依頼単位に検査内容と結果が確認できる。
1	-	6	-	2	-	4			台帳の内容は画面表示、ファイル出力(CSV形式)ができる。
1	-	6	-	2	-	5			明細に削除依頼、テスト依頼を含むかどうかの指示ができる。
1	-	6	-	2	-	6			骨髓像検査は年の通し番号(骨髓像SEQ)で管理ができる。
1	-	6	-	2	-	7			骨髓検査台帳の照会画面から依頼を選択して骨髓像カウンター画面に遷移できる。
1	-	6	-	3					報告書発行
1	-	6	-	3	-	1			検査報告書を作成できる。
1	-	6	-	3	-	2			報告書のレイアウトはビジュアルな帳票設計ツールを使用し、属性の配置等のイメージを確認しながら作成できる。
1	-	6	-	3	-	3			検査項目のレイアウトは、固定、フリー、混在が設定できる。
1	-	6	-	3	-	4			報告書の種類はマスターにて複数、登録ができ、レイアウトを指定して対象項目、出力順番を設定できる。
1	-	6	-	3	-	5			簡易設定(フリーのみ可)として、対象項目を個別設定ではなく、院内、外注、全て、から選択ができる。
1	-	6	-	3	-	6			報告書毎に発行管理(未発行、中間報告済み、完了報告済み)ができる。
1	-	6	-	3	-	7			報告書は発行状況の画面から状況を確認して個別または、一括で発行指示ができる。
1	-	6	-	3	-	8			発行指示は、中間、完了、強制が選択でき、発行済みの再発行は印刷履歴から指示できる。
1	-	6	-	3	-	9			報告書の発行先はマスターにて診療科/病棟毎に設定できる。
1	-	6	-	3	-	10			プレビューができる。
1	-	6	-	3	-	11			報告書毎に自動発行の設定ができる。
1	-	6	-	3	-	12			自動発行は対象項目の検査が完了した時点で設定されているプリンターに自動印刷できる。
1	-	6	-	3	-	13			画像を含む報告書(骨髓像報告書等)を作成できる。
1	-	6	-	3	-	14			画像報告書に出力する画像は画像管理から選択できる。
1	-	6	-	3	-	15			専用サービスの設定により、FAXを出力先に指定してFAX送信ができる。
1	-	6	-	3	-	16			FAXの送信先(FAX番号)はマスターにて診療科/病棟毎に設定できる。
1	-	7							データ管理業務
1	-	7	-	1					精度管理
1	-	7	-	1	-	1			分析装置から受信する精度管理試料の測定結果を管理できる。
1	-	7	-	1	-	2			精度管理の管理図(画面)は以下機能を有する。
1	-	7	-	1	-	2	-	1	◦ Xbar-R管理図
1	-	7	-	1	-	2	-	2	◦ Xbar-Rs-R管理図
1	-	7	-	1	-	2	-	3	◦ ツインプロット管理図
1	-	7	-	1	-	2	-	4	◦ コントロールモニター画面
1	-	7	-	1	-	3			表示する分析装置は設定・画面操作により変更できる。また、用途に応じて分析装置・管理試料のグルーピングができる。
1	-	7	-	1	-	4			同一検査項目・同一管理試料であってもモジュールが異なる場合は、それぞれで精度管理できる。(分析装置の仕様による)
1	-	7	-	1	-	5			取込んだ精度管理データの修正、削除(無効化)ができる。また、精度管理データの手入力追加ができる。
1	-	7	-	1	-	6			分析装置から受信するエラーコードを取得し、表示できる。
1	-	7	-	1	-	7			分析装置から受信する不等号付き結果は、不等号を取り外し管理できる。
1	-	7	-	1	-	8			分析装置から受信する待機試薬情報の表示・非表示を切り替えできる。(分析装置の仕様による)
1	-	7	-	1	-	9			Xber-R管理図は、同一管理試料を使用する複数機器・号機のグラフを重ねて表示できる。
1	-	7	-	1	-	10			精度管理ロットの使用開始日・終了日が設定でき、グラフ上で表示できる。
1	-	7	-	1	-	11			過去に取込んだロット情報の管理図が表示ができる。
1	-	7	-	1	-	12			マルチルールチェックができる。また、マルチルールチェックで使用する標準偏差値はマスター値と集計値の選択ができる。
1	-	7	-	1	-	13			管理図上でマルチルールに該当する場合は認識できる。また、適応するマルチルールは管理試料毎に選択できる。
1	-	7	-	1	-	14			精度管理データに対して、測定単位・項目単位にコメントを登録できる。
1	-	7	-	1	-	15			コメント登録は、定型文から登録できる。
1	-	7	-	1	-	16			コメントが登録されている場合、管理図上でコメント登録されている事が認識できる。
1	-	7	-	1	-	17			コメントが複数登録されている場合、表示する優先順位を設定できる。
1	-	7	-	1	-	18			コメントが複数登録されている場合、複数登録されていることが認識できる。
1	-	7	-	1	-	19			精度管理コントロールモニターは、標準偏差が±2SD、±3SD以上の場合は、背景色により判別できる。
1	-	7	-	1	-	20			XBer-Rs-R管理図の印刷ができる。
1	-	7	-	1	-	21			コントロールモニターは、データの出力(CSV、エクセル)ができる。
1	-	7	-	1	-	22			不確かさ対応としてExcel出力ができる。(タイプA)
1	-	7	-	1	-	23			精度管理の関連マスターは以下の機能を有する。

1	-	7	-	1	-	23	-	1	。ロット切替機能を持ち、使用前に管理試料の値を入力できる。
1	-	7	-	1	-	23	-	2	。同一ロット内での項目単位に管理値情報を世代管理できる。
1	-	7	-	2					再検シミュレーション
1	-	7	-	2	-	1			過去に蓄積された検査データを活用した再検シミュレーションができる。
1	-	7	-	2	-	2			再検シミュレーションは「前回値あり、前回値なし、項目相関」を指定でき、指定された内容で分布図の表示ができる。
1	-	7	-	2	-	3			ヒストグラム表示ができる。また、ヒストグラムは「今回値の上下限值」「前回値の上下限值」「前回値の差・比」の表示ができる。
1	-	7	-	2	-	4			再検シミュレーションは以下の機能を有する。また、以下機能は検査項目単位に検証できる。
1	-	7	-	2	-	4	-	1	。再検値設定による再検率の検証
1	-	7	-	2	-	4	-	2	。前回値設定による再検率の検証
1	-	7	-	2	-	5			抽出条件は、依頼日の期間指定ができる。また、属性情報(性別、年齢)や分析装置を指定できる。
1	-	7	-	2	-	6			抽出条件は、測定項目が指定できる。また、検査項目は材料単位に指定ができる。
1	-	7	-	2	-	7			抽出除外条件(依頼コメント・結果コメント)を指定できる。
1	-	7	-	2	-	8			分布図表示の条件として以下の指定ができる。
1	-	7	-	2	-	8	-	1	。上下限值
1	-	7	-	2	-	8	-	2	。前回値
1	-	7	-	2		9			抽出した情報の再検率を表示できる。また、既存設定の再検率と比較できる。
1	-	7	-	2		10			分布図の画面上で閾値を変動させることで、再検率を見直すことができる。
1	-	7	-	2		11			再検率を検討した設定値を検査項目マスターへ反映できる。
1	-	7	-	2		12			抽出した情報を印刷できる。
1	-	7	-	2		13			分布図表示のプロットを指定し、該当する検査依頼の詳細結果を確認できる。
1	-	7	-	3					画像管理
1	-	7	-	3	-	1			検査の画像情報を依頼に紐付けて取込み、管理できる。
1	-	7	-	3	-	2			画像の形式は、PNG、JPG、JPEG、BMP、TIFF、及びPDF(文書ファイル)が管理できる。
1	-	7	-	3	-	3			画像情報は画像種別で分類して管理できる。
1	-	7	-	3	-	4			画像種別はマスター設定で任意に作成できる。
1	-	7	-	3	-	5			外部メディア(または任意のフォルダー)に保存された画像情報を選択して取込みできる。
1	-	7	-	3	-	6			各カウンター画面(血液像、尿沈渣、骨髓像等)から顕微鏡カメラと連携して顕微鏡画像を取込みできる。
1	-	7	-	3	-	7			各カウンター画面から現在表示している依頼の画像管理画面を展開できる。
1	-	7	-	3	-	8			外部委託先が提供する画像報告書の情報を取込みできる。
1	-	7	-	3	-	9			画像情報にコメントを登録できる。(1画像につき最大5個まで)
1	-	7	-	3	-	10			取り込んだ画像の編集(文字・矢印・テキスト・図形)ができる。
1	-	7	-	3	-	11			依頼日の範囲、至急・入外・診療科/病棟・依頼医の条件を指定して検索ができる。
1	-	7	-	3	-	12			特定患者(患者ID、患者名)を指定して抽出ができる。
1	-	7	-	3	-	13			画像種別、画像コメント(曖昧検索)での検索ができる。
1	-	7	-	3	-	14			画像にタグ情報を付加し、教育・発表資料等への2次利用が容易にできる。
1	-	7	-	3	-	15			任意の画像を選択してHISに送信できる。また、送信済み画像の取消しができる。(HISベンダーの仕様による)
1	-	7	-	3	-	16			任意の画像を選択して検査情報Webシステムに送信できる。また、送信済み画像の取消しができる。
1	-	7	-	3	-	17			任意の画像を使って画像コンテンツを作成する機能を有する。
1	-	7	-	4					統計
1	-	7	-	4	-	1			日報、月報、年報の印刷ができる。
1	-	7	-	4	-	2			以下に記載する統計資料が出力できる。
1	-	7	-	4	-	2	-	1	。検査部門別点数
1	-	7	-	4	-	2	-	2	。セット別項目件数
1	-	7	-	4	-	2	-	3	。診療科/病棟別項目件数
1	-	7	-	4	-	2	-	4	。依頼医別項目件数
1	-	7	-	4	-	2	-	5	。検査部門別項目件数
1	-	7	-	4	-	2	-	6	。入院外来別項目件数
1	-	7	-	4	-	2	-	7	。外部委託先別項目件数
1	-	7	-	4	-	3			項目別件数の集計対象をマスターで設定できる。
1	-	7	-	4	-	4			日報、月報、年報のファイル出力ができる。
1	-	7	-	4	-	5			テスト患者を除外して集計できる。テスト患者とする条件は設定にて指定できる。(患者IDの先頭文字列指定など)
1	-	7	-	5					汎用データ抽出
1	-	7	-	5	-	1			依頼日の範囲、検索条件を指定して検査データを抽出し、画面表示、印刷、ファイル出力(CSV形式)ができる。
1	-	7	-	5	-	2			特定患者(患者ID)を指定して抽出ができる。
1	-	7	-	5	-	3			検索条件は属性、コメント、検査結果の複合条件(AND、OR)を指定できる。
1	-	7	-	5	-	4			属性は、性別・透析区分・至急・入外・診療科/病棟・依頼医、検体不備(凝固、量不足 等)の条件を指定できる。
1	-	7	-	5	-	5			コメントは、患者・依頼・検体・検査結果の各コメントの、定型コメント(コード)及びフリーコメント(曖昧検索)の条件を指定できる。
1	-	7	-	5	-	6			検査結果は、項目毎に、材料・結果値(定量・定性)・結果コードの条件を指定できる。
1	-	7	-	5	-	7			出力する属性項目(患者IDや患者名、診療科/病棟・依頼医、依頼コメント等)と出力順番を指定できる。
1	-	7	-	5	-	8			出力する検査項目は、全項目、検索条件項目のみ、出力無し(属性のみ)が選択できる。

1	-	7	-	5	-	9			印刷時はプレビューができる。
1	-	7	-	5	-	10			抽出条件を保存でき、次回から保存した条件を使用できる。
1	-	7	-	5	-	11			検査時間帯(通常・時間外)を条件に指定できる。
1	-	7	-	5	-	12			実患者、テスト患者を指定して抽出できる。テスト患者とする条件は設定にて指定できる。(患者IDの先頭文字列指定など)
1	-	7	-	6					TAT分析
1	-	7	-	6	-	1			TAT情報を画面表示できる。また、TAT情報がグラフとして視覚的に表現できる。
1	-	7	-	6	-	2			検索条件として以下条件の指定ができる。
1	-	7	-	6	-	2	-	1	◦ 検査依頼日
1	-	7	-	6	-	2	-	2	◦ 分析装置
1	-	7	-	6	-	2	-	3	◦ 属性情報(検査区分、入外区分、診療科/病棟など)、検体情報(容器)
1	-	7	-	6	-	2	-	4	◦ 検査項目
1	-	7	-	6	-	2	-	5	◦ 曜日指定(平日・半休日・休日)
1	-	7	-	6	-	2	-	6	◦ 時間帯、時間間隔
1	-	7	-	6	-	3			TAT情報は以下処理時間の記録ができる。
1	-	7	-	6	-	3	-	1	◦ 依頼登録
1	-	7	-	6	-	3	-	2	◦ 検体到着
1	-	7	-	6	-	3	-	3	◦ 分析装置依頼送信
1	-	7	-	6	-	3	-	4	◦ 外部委託依頼
1	-	7	-	6	-	3	-	5	◦ 結果登録
1	-	7	-	6	-	3	-	6	◦ 結果確定
1	-	7	-	6	-	3	-	7	◦ 結果送信
1	-	7	-	6	-	4			外来採血運用時間を採血管準備装置から受信できる。また、TATに反映できる。
1	-	7	-	6	-	5			総検査時間だけでなく、任意で設定した時間管理(到着～測定・測定～承認など)ができ、各々の所要時間を確認できる。
1	-	7	-	6	-	6			TATグラフは依頼単位、工程単位を指定して作成できる。
1	-	7	-	6	-	7			画面表示された情報をファイル出力(CSV形式)できる。
1	-	7	-	6	-	8			抽出条件を保存でき、次回から保存した条件を使用できる。
1	-	7	-	7					保存検体管理
1	-	7	-	7	-	1			保管庫・棚・ラックを指定し、バーコードでの自動採番、検査依頼番号により検体を登録できる。
1	-	7	-	7	-	2			保存検体の廃棄、出庫、返却ができる。
1	-	7	-	7	-	2	-	1	出庫、返却時に各コメントが登録できる。
1	-	7	-	7	-	3			抽出日、属性情報に合致する情報の検索を行うことができる。
1	-	7	-	7	-	4			保存検体情報の一覧は、検体番号、保管庫、棚、ラック情報、貸出コメント、返却コメント、属性情報が表示できる。
1	-	7	-	7	-	4	-	1	属性情報は依頼日、依頼番号、患者ID、患者名、患者カナ名が表示できる。
1	-	7	-	7	-	5			保存ラック(保管庫、棚、ラック番号、ポジション)の移動が出来る。
1	-	7	-	7	-	6			保存ラック種毎に最大保存検体数が設定できる。
1	-	7	-	7	-	7			保存ラック種毎に登録可能な容器情報が指定できる。
1	-	7	-	7	-	8			保存情報を検索、一覧形式でデータ表示・ファイル出力(CSV形式)・印刷できる。
1	-	7	-	8					その他データ抽出機能
1	-	7	-	8	-	1			各進捗グループ毎の進捗状況、および検体数・再検検体数をファイル出力(CSV形式)できる。
1	-	7	-	8	-	2			採血管種、病棟、診療科別に採血管の本数を集計、ファイル形式(EXCELまたはCSV形式)で出力できる。
1	-	7	-	8	-	3			依頼数、初検数、再検数、コメント数を集計、ファイル形式(EXCELまたはCSV形式)で出力できる。
1	-	7	-	8	-	4			加古川地域保健医療情報システムに対し検査結果の送出が可能であること
1	-	8							搬送システム連携
1	-	8	-	1	-	1			特定項目について分析機の号機を指定することができる。
1	-	8	-	1	-	2			搬送ラインとの連携内容は以下の機能を有する。
1	-	8	-	1	-	2	-	1	◦ 検体の位置、ラック、ラックポジションが検体検査システムで把握できる。
1	-	8	-	1	-	2	-	2	◦ 検体検査システムから搬送システムへ再搬送指示ができる。
1	-	8	-	1	-	2	-	3	◦ 検体検査システムからの指示で検体保存ユニットからの搬出指示ができる。
1	-	8	-	1	-	2	-	4	◦ 搬送システムから受信した画像が表示できる。
1	-	9							システム運用・保守
1	-	9	-	1					マスターメンテナンス
1	-	9	-	1	-	1			マスターの新規追加、修正、削除、中止を行うことができる。また、一覧表示している中止の情報は目視で判断できる。
1	-	9	-	1	-	2			マスターは既存の内容をコピーし編集する機能を有する。
1	-	9	-	1	-	3			患者属性情報の入力、訂正、削除ができる。また、登録済みの患者属性情報は、ID入力時に該当する属性が表示できる。
1	-	9	-	1	-	4			患者の感染症情報は検査結果と連動し更新できる。
1	-	9	-	1	-	5			患者の血液型情報は血液型検査結果と連動し更新できる。
1	-	9	-	1	-	6			ユーザーの権限に沿って、操作(参照、編集・削除、ファイル入出力)の制限ができる。
1	-	9	-	1	-	7			世代管理が必要なマスターは世代管理され、適用時期を指定できる。
1	-	9	-	1	-	8			採取量計算は項目加算、容器最大量、最低量 + 項目加算の計算に対応できる。
1	-	9	-	1	-	9			マスターの操作ログ管理ができる。また、マスター編集時の意図・コメントなどを残せるメモ機能を有する。
1	-	9	-	1	-	10			マスターの整合性チェックが行える。また、整合性チェック時にエラー表示できる。

1	-	9	-	1	-	11			マスターの設定時にチュートリアル形式などによる入力補助機能を有する。
1	-	9	-	1	-	12			一覧形式で容易な操作ができる。検査項目など情報量の多いマスターは、別途個別の詳細画面の呼出しができる。
1	-	9	-	2					保守体制
1	-	9	-	2	-	1			保守契約により、専用の電話サポート受付窓口が利用できる。
1	-	9	-	2	-	2			専任体制で設置され、ISO27001を取得したサポート部門を有する。
1	-	9	-	2	-	3			電話サポート窓口は24時間365日受付ができ、平日・営業時間中に電話サポートやリモートメンテナンスサービスの対応ができる。
1	-	9	-	2	-	4			電話サポート窓口に24時間365日SEが在席し、電話サポートやリモートメンテナンスサービスの対応ができる。

									ハードウェアについて
2	-	1							ハードウェア要件（台数）
2	-	1	-	1					サーバは、以下の要件を満たすこと。
2	-	1	-	1	-	1			システム・サーバはラックマウント式とし、病院既設の19インチラックに搭載し病院既設のKVMに接続すること。（病院既設：富士通社製）
2	-	1	-	1	-	2			検体検査システム・サーバ（冗長化）、細菌システム・サーバ、Webシステム・サーバ、無停電電源装置等をそれぞれ導入すること。
2	-	1	-	1		3			各サーバについては当院の検査数を基に今後10年程度を想定したストレージ容量を確保し、省スペース化（薄型サーバ等）を図ったうえ、ラッキング構成図を別途提示すること。
2	-	1	-	2					クライアントは、以下の要件を満たすこと。
2	-	1	-	2	-	1			デスクトップPCは、3 6 台とする。（富士通社製D7014/R：Windows11/23H2、Corei5以上、メモリ16G以上、SSD256G以上）
2	-	1	-	2	-	1	-	1	検体検査システム・クライアントPCはを1 1 台とする。
2	-	1	-	2	-	1	-	2	検体検査システムと電子カルテの相乗りクライアントPCを1 4 台とする。
2	-	1	-	2	-	1	-	3	細菌検査システム・クライアントPCを1 台とする。
2	-	1	-	2	-	1	-	4	細菌検査システムと電子カルテの相乗りクライアントPCを8 台とする。
2	-	1	-	2	-	1	-	5	検体検査システム細菌検査システムと電子カルテの相乗りクライアントPCを2 台とする。
2	-	1	-	2	-	2			ノート型PCは、3 台とする。（富士通社製A5513/R：Windows11/23H2、Corei5以上、メモリ16G以上、SSD256G以上、WEBカメラ内臓）
2	-	1	-	2	-	2	-	1	検体検査システムと電子カルテの相乗りクライアントPCを3 台とする。
2	-	1		3					周辺機器は、以下の要件を満たすこと。
2	-	3	-	3	-	1			レーザー印刷装置 A4モノクロは、5 台を用意すること。（リコー社製P501）
2	-	3	-	3	-	2			レーザー印刷装置 A3カラーは、2 台とし、増設トレイを各1 台設け、用意すること。（リコー社製P C6000L）
2	-	3	-	3	-	3			バーコードプリンター（サーマル、LAN、カッターなし）は、6 台を用意すること。（小林クワイエット社製ip-70）
2	-	3	-	3	-	4			据え置き型バーコードリーダーは、4 台を用意すること。
2	-	3	-	3	-	5			デスクトップPC用フルHDモニター（23インチ）を36台、用意すること。
2	-	3	-	3	-	6			WEBカメラを36台、用意すること。（エレコム社製UCAM-C520FBBK）
2	-	3	-	3	-	7			有線型キーボードを36台、用意すること。
2	-	3	-	3	-	8			有線型レーザー式マウスを39台、用意すること。
2	-	3	-	3	-	9			Felicaカードリーダーを39台、用意すること。（SONY社製RC-S300業務用）
2	-	3	-	3	-	10			MicroSoft Office Standardを3 6式、用意すること。
2	-	3	-	3	-	11			MicroSoft Office professionalを3 式、用意すること。
2	-	3	-	3	-	12			WindowsServer2025 CALを39式、用意すること。
2	-	3	-	3	-	13			病院が準備するウイルス対策ソフトも39式をクライアントPCにインストールすること。（Trendmicro社製 ApexOne）
2	-	3	-	3	-	14			顕微鏡用デジタルカメラ連携ソフト(cellsence)を用意すること。
2	-	3	-	3	-	15			検体検査システムに必要なHUBやLANケーブル、OAタップ等を用意すること。